



医療崩壊はこうして起こる

藤 洋 吐 (中央区)

医師はいつからいがみ合うようになったのだろうか？

患者との信頼関係の喪失や医療財政のひっ迫を医療崩壊の原因とする見方がある。が、果たしてそれだけだろうか？そもそも、原因を自分たち以外のもののせいにしては解決は望めない事になる。

医師不足といわれて久しい。少ない人数でより多くの仕事をなすためには何が必要なのか？少ない予算で成果を上げるためには何があったらできるのだろうか？

事業主として18年の経験から言わせてもらえば、合理化には限界があり、その限界を超えることができるのは「フロー」と言われる現象である。スポーツ界では「ゾーン」と呼ぶこともある。その現象が起こる前提としては、チームが作る場の空気、信頼され安心して没頭できる環境が必要である。

チームが一丸となって力を合わせるこそが限界を打ち破ることを可能にする。

院内でも地域でも、チーム内や業界内で信頼関係を固めることこそが合理化以上に成果につながり、何より対外的な信頼を築く第一歩になるのではないだろうか。

しかしである。医師はいつからいがみ合うようになったのだろうか？

医療チーム内で、あるいはチーム同士で足を引っ張り合うようになったのは、いつからだろうか？

誰が医療崩壊を起こしているのか？そして誰が間接的にそのことに加担しているのか？

医師会にはぜひ寛容な場の空気を作っていただいて、我々医師同士がいがみ合わずに安心して医療に専念できるようにお願いしたいものである。株式会社の医療経営が始まり、医療が株主の最大利益追求のための道具にされる日が近づいている。

いじめのない医師会を実現することでTPPを乗り越えたいものである。